

2024年2月1日 【清真学園 校長室だより】 清真学園と学校行事

年が明けると本校は、さっそく次年度の学校行事の準備に取りかかります。1月19日には、第45回の体育祭実行委員長の立候補者2名による立会演説会がありました。いずれも説得力があり、聴衆を引きつけ、体育祭にかける真剣な思いが十分に伝わる素晴らしいスピーチでした。投票結果も予想通り、近年希に見る接戦となりました。おそらく清真以外の学校で、行事の実行委員長を選挙で決めるというケースはそれほど多くはないと思います。このことは本校が、いかに一つひとつの行事を大切にしながら、学校としての歴史を重ねてきたかの証左であると感じています。

かつて読んだエッセイのタイトルです。「フランスの学校には運動会も授業参観もない」。内容を要約すると、フランスの多くの学校では入園式、入学式はいっさい行われず、同様に卒園・卒業式もなし。幼稚園、小学校、中学校、高校、大学すべて入学初日から時間割どおりに授業が始まり、学年末には授業終了とともに「さようなら、よい夏休みを」と声を掛け合うだけでお別れ。その理由は、ほとんどの親が共働きであるため、親の負担を徹底的になくしてある、ということのようです。

近年日本においても、授業時間確保の名分のもとに学校行事の合理化、つまりは削減に取り組んできた学校が相当数あり、理由は違えど、我が国も、大きな方向性はフランスに少しずつ近づいていることになります。

学校が行うすべての教育活動の中で、何にどのくらい時間とエネルギーをかけるのかは、すなわち、その学校がどのような生徒を育てたいのかに行き着きます。体育祭や創陵祭に代表されるすべての行事には、清真が考える、生徒が大きく成長する場作りとしての役割があります。行事の際に、清真生が見せる強烈なパッションは、建学の精神に「人間性の勝利」を謳う本校の教育にとって、すべての行事が必要不可欠なものであることの証明です。これからも、種々の行事が生徒たちにとっての貴重な成長の場となるよう、数の精選ではなく、あくまでも内容のブラッシュアップを図っていきたいと考えています。

まずは4月の体育祭、皆様のご来場を心よりお待ちしております。